

論点	現 状	対 応
① 性的マイノリティへの適切な対応		
	<p>・性的マイノリティの子どもは、いじめ、不登校等のリスクが格段に高い。 ※小中高でのいじめ被害率58%、不登校率21%（日高教授調べ）</p> <p>・支援策の一つとして、自認する性の制服着用を認めることが望ましい。 ※文部科学省通知（H27.4.30） 学校における支援（例示）：自認する性別の制服着用を認めること</p> <p>・全国的にみて、先進的な学校では、女子生徒にスラックスを認めることは当たり前前の状況。 ※神戸市立中では12校が導入（R元.10.01現在）</p> <p>・女子生徒がスラックスを着用することで性別違和を持っていることが明らかになるような状況では、着用が難しい。</p>	
② 保護者の経済的負担の軽減		
	<p>・指定販売店選定過程の透明化が必要。 ※公正取引委員会報告（H29.11.29） コンペ、見積り合わせ等の方法で指定販売店を選ぶ等の取組が望まれる</p> <p>・入学時に集中して発生する経済的負担の緩和を図ることが必要。 ※価格について57%の方が「不満」または「やや不満」と回答 （R元年度ネットモニターアンケート）</p> <p>・見積り合わせだけでは、価格を引き下げる効果が少ない。 ※引下げ幅は最大で△3.8% （29、30年度実績）</p> <p>・学校規模によって価格差があり、小規模校ほど高くなる傾向がある。 ※最も高い校の価格は最も安い校の1.7倍 （男子上下セット）</p>	